学校教育目標　「あたたかさ　たくましさ　たしかさ」

楠中学校だより

R6.2.13　No.14

時の経つのが早い！

「人間万事、塞翁が馬」・・・生徒のみなさんへ

【お話】昔、中国の北方に住む老人（塞翁）の飼っていた馬が逃げていなくなった。人々が気の毒がると、老人は「そのうち良い事があるかもしれない」と言った。

しばらくすると、逃げた馬が別の駿馬（足の速い素晴らしい馬）を連れて帰ってきた。そのことを人々が喜んでいると、老人は「このことが災いになるかもしれない」と言った。すると言葉のとおり、老人の息子がその馬から落ちて脚を折った。人々がお見舞いに行き悲しんでいると、老人は「これが良い事となるかもしれない」と言い、動じなかった。

その直後、戦争が起き、若者たちは兵隊にとられ、その多くは戦死したが、老人の息子は脚を骨折したために徴兵を免れて、生きながらえた。

１月があっという間に過ぎたと思えば、立春が過ぎ、早くも２月中旬となりました。

この間、３年生は私立入試や県立前期選抜入試が終わり、私立の試験結果を受けて、担任の先生と二者懇談会をしている時期だと思います。

今週15日(木)には、前期選抜の結果が出ます。例年、前期選抜の結果はかなり厳しいものがあります。もう私が何を言いたいのか、察しがついた人もいると思います。

この「塞翁が馬」は「人生における幸や不幸はなかなか予想できない」という意味で使われます。生きていく中で、何かに挑戦して、うまくいくこともあれば、そうでないこともあります。うまくいったからといって油断してはいけないし、うまくいかなかったからといって、そのことが果たしてマイナスになるとは限らないということです。

要するに、何が成功!? で、何を失敗!? というのかはわからないということです。どんな結果であっても受け取り方次第でその後が変わってくるということです。

これまでの教え子の中にも順調に志望校に進学するも、授業のスピードについていけず、１年生で学校に行けなくなり、１年休学の後、１つ下の学年の同級生に押され、その高校で生徒会長となって、自信をつけて、起業した子もいました。

また、同じ県立高校を受検した２人が明暗分かれて、進学先が違ったけど、大学でまた再会したとか、何度でも見てきました。

はたまた、中学を出てすぐ左官業の道へすすみ、よい親方に弟子入りして、20代後半で起業、その子は当時の私よりもはるかに年収が多く「すごいなあ！」と話したこともありました。

皆さんは、これから長い人生を歩む中で、多くの幸せや苦労に出会うこととなります。もしかすると、もう乗り越えられないと思うような困難に出会うことがあるかもしれません。私自身、これまでをふり返った時、この「塞翁が馬」の言葉のとおりだと思うことが何度かありました。大きな挫折を味わい、これからどうしようかなと悩んだことも何度もありました。でも、今になって思うと、その挫折を経験したことで、自分自身が少しは強くなったのかなと思っています。

今でもそうです。とても苦しい時は誰にでもあります。そんな時に、ぜひ「塞翁が馬」を思い出そうではありませんか。もしかすると、ピンチこそチャンスかもしれません。

どんな試練が与えられたとしても、その経験が自分を成長させる糧となるはずだと信じて、お互いにがんばろうではありませんか。

そして、今は「やるだけのことをやって、あとは天命を待つ！」というスタンスでいきましょう。何はともあれ、３年生の皆さんは、よくがんばっています！

～ 2/7(水) コミュニティ・スクール が開催されました～

先週、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）がありました。委員の皆様からは「皆、落ち着いて学習に取り組めている雰囲気が感じられ、子どもたちと先生たちの関係もいいようですね。コロナ禍もある程度落ち着いた今こそ、子どもたちには色々なことに挑戦させてあげてほしい！」とエールを送っていただきました。

いつもエネルギーをいただいています。お忙しい中を、本当にありがとうございました。